令和８年度「全国学力・学習状況調査」大阪市立鴫野小学校の結果

～分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について～

区　　名	城東区
学　校　名	大阪市立鴫野小学校
学 校 長 名	崎本　靖朋

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和８年４月に、６年生を対象として、「教科（国語・算数）に関する調査」と「児童質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

１　調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

２　調査内容

(1)　教科に関する調査

・国語

・算数

(2)　質問調査

・児童に対する調査

・学校に対する調査

３　調査の対象

・国・公・私立学校の小学校第６学年の原則として全児童

・大阪市立鴫野小学校では、第６学年　99名

令和８年度「全国学力・学習状況調査」大阪市立鴫野小学校の結果概要

本校の平均正答率は、国語55.0%、算数54.0%であり、全国及び大阪府（公立）の平均正答率を下回る結果となった。一方で、教科ごとの内容を見ると、国語では「読むこと」、算数では「測定」の領域において比較的良好な結果が見られた。また、児童質問調査では、自己肯定感や規範意識、人間関係に関する項目で高い結果が見られ、本校の児童のよさが表れる結果となった。
さらに、ICT機器を活用した情報収集や資料作成に対する児童の意識は高く、学習の基盤となる学習習慣や生活習慣についても良好な状況が見られた。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

【国語】
「読むこと」の領域において全国平均に近い結果が見られた。特に、文章を読んで考えたことを自分の経験と結び付けてまとめる問題では全国平均を上回っており、文章内容を理解し、自分の生活や経験と関連付けながら考える力が育っていることがうかがえる。また、話し合いや発表に関する問題についても比較的良好な結果が見られ、これまで取り組んできた対話的な学習活動の成果が表れている。 一方、「書くこと」や「情報の扱い方に関する事項」については課題が見られた。複数の資料や文章から必要な情報を取り出し、それらを根拠として自分の考えをまとめて表現する問題の正答率が低く、情報を整理・活用しながら表現する力の育成が今後の課題である。
【算数】
「測定」の領域において全国平均を上回る結果となった。帯グラフの読み取りや時間に関する問題など、基礎的な知識・技能を活用する問題では比較的高い正答率が見られ、学習内容の定着がうかがえる。
また、児童一人ひとりを見ると、高い正答率を示した児童も多く、学習内容を十分理解している児童層が一定数存在していることもわかった。 一方で、「変化と関係」の領域については課題が見られた。割合や単位量当たりの大きさ、分数に関する問題や、数量の関係を、根拠をもとに説明する問題に課題が見られ、筋道立てて考えを表現する力を育てる必要がある。

質問調査より

「自分にはよいところがあると思う」「友達関係に満足している」「いじめはどんな理由があってもいけないと思う」と回答した児童の割合が高く、自己肯定感や規範意識、人とのつながりを大切にする態度が育まれていることが分かった。
また、「地域や社会をよくするために何かしてみたい」と回答した児童の割合も高く、地域とのつながりを大切にする本校の教育活動の成果が表れている。 ICT活用については、「情報を調べることができる」「プレゼンテーション資料を作成できる」と回答した児童の割合が高く、学習ツールとして活用する力が身についていることが確認できた。
一方で、読書に親しむ習慣や、学習したことを文章でまとめたり説明したりすることについては改善の余地が見られた。今後は言語活動や読書活動の充実を図り、学力の向上につなげていく必要がある。

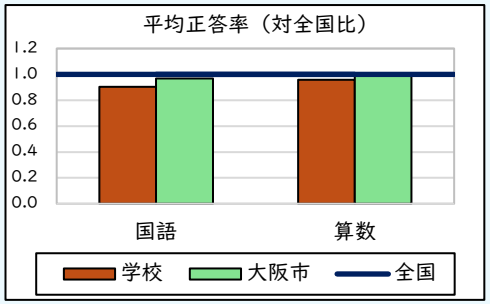
今後の取組（アクションプラン）

〇国語では、文章や資料から必要な情報を整理し、根拠を明確にしながら自分の考えを表現する学習活動を充実させる。日常の授業において「書く活動」を継続的に位置付け、表現する力の向上を図る。
〇算数では、「変化と関係」の領域を重点課題とし、割合や単位量当たりの大きさ、分数などの内容について、図や表、ICT教材等を活用しながら理解を深める授業改善を行う。
〇各教科を通して、自分の考えを説明したり交流したりする場面を充実させ、思考力・判断力・表現力の育成を図る。
〇読書活動の充実を図り、学校図書館や学級文庫の活用を進めることで、語彙力や読解力の向上につなげる。
〇児童の自己肯定感や規範意識の高さ、人とのつながりを大切にする姿勢は本校の大きな強みである。今後も人権教育やいじめ防止教育を充実させ、安心して学び合える学校づくりを進める。
〇ICT機器を効果的に活用しながら、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を進めるとともに、児童の学ぶ意欲や学習習慣のさらなる向上を目指していく。

令和８年度　全国学力・学習状況調査　教科に関する調査結果の概要

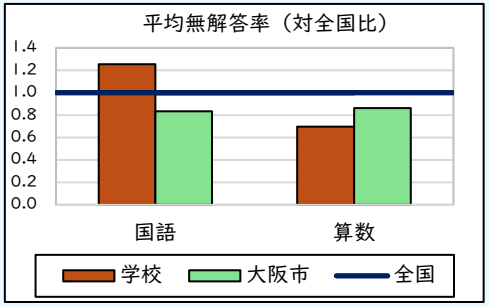
平均正答率（%）

	国語	算数
学校	55	54
大阪市	59	56
全国	60.9	56.4



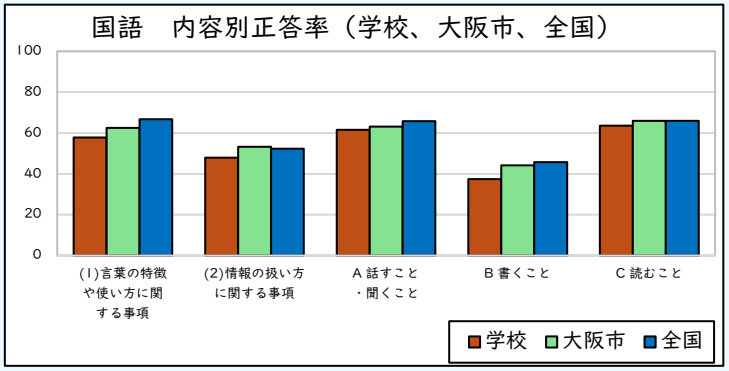
平均無解答率（%）

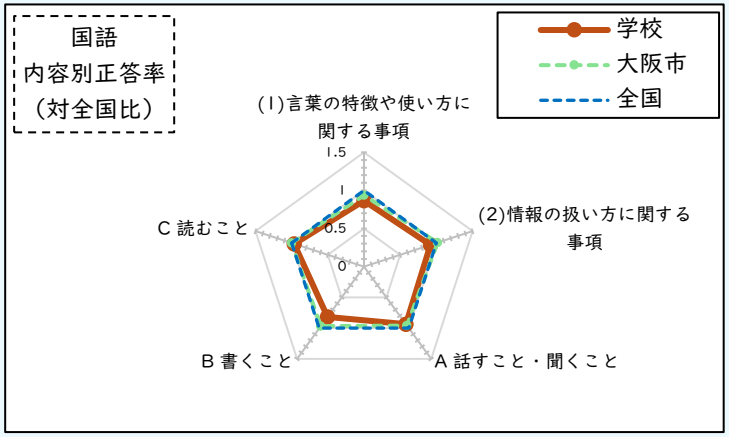
	国語	算数
学校	4.3	2.2
大阪市	2.8	2.8
全国	3.4	3.2



【国語】内容別正答率

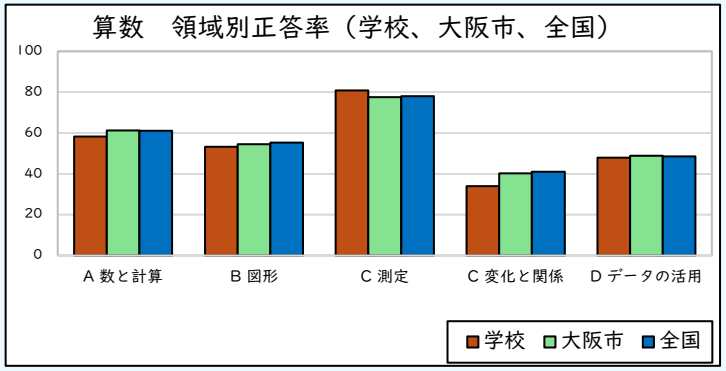
学習指導要領の内容	対象問題数（問）	平均正答率（%） 学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い方に関する事項	4	57.8	62.5	66.8
(2)情報の扱い方に関する事項	2	48.0	53.2	52.3
(3)我が国の言語文化に関する事項	0	－	－	－
A 話すこと・聞くこと	3	61.6	63.1	65.8
B 書くこと	2	37.4	44.2	45.7
C 読むこと	2	63.6	66.0	65.9

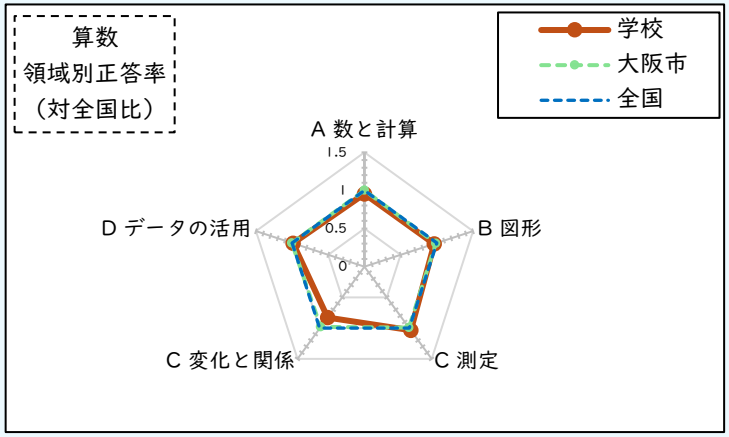




【算数】領域別正答率

学習指導要領の領域	対象問題数（問）	平均正答率（%） 学校	大阪市	全国
A 数と計算	8	58.3	61.2	61.1
B 図形	4	53.3	54.5	55.3
C 測定	1	80.8	77.5	78.1
C 変化と関係	3	34.0	40.3	41.1
D データの活用	4	48.0	48.8	48.6

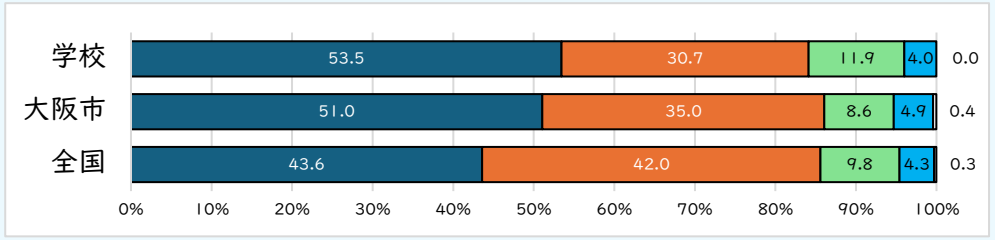


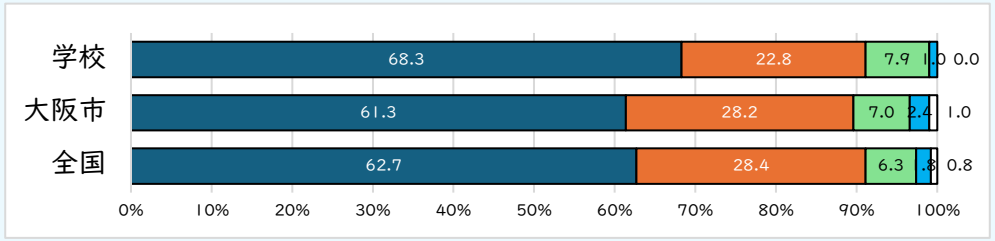


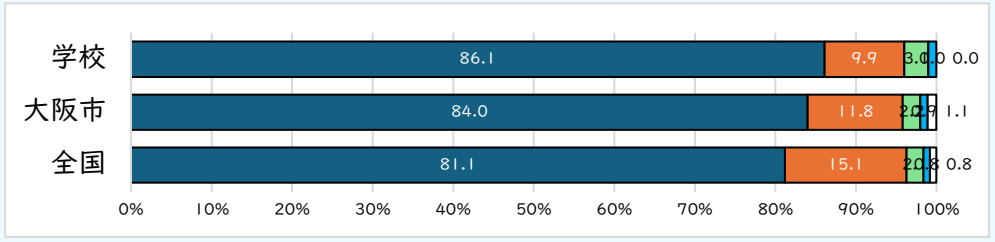
令和８年度　全国学力・学習状況調査　児童質問調査より

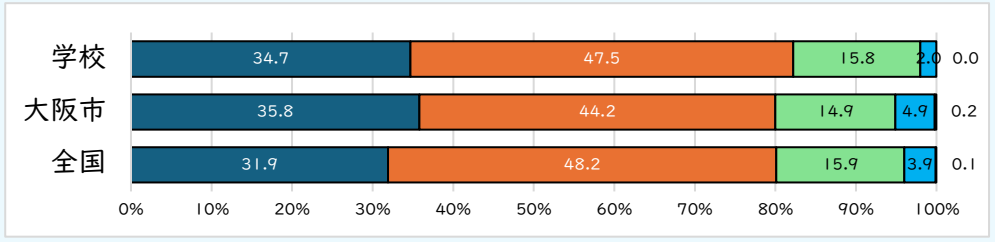
※集計値を四捨五入するため、横軸合計が100.0%にならない場合があります。

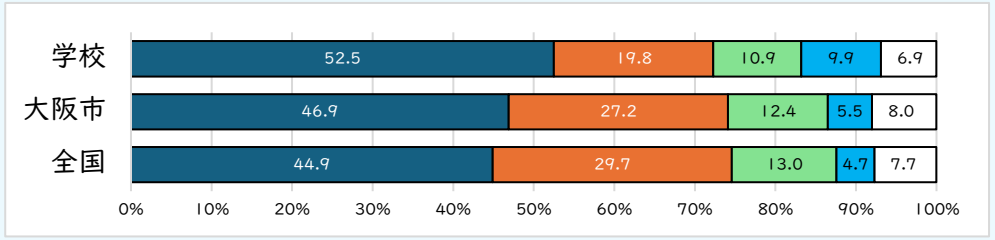
質問番号	質問事項
（８）	自分には、よいところがあると思いますか
（１７）	友達関係に満足していますか
（１２）	いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか
（３３）	地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか
（３６－４）	あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って学校での活動でプレゼンテーション（発表のスライド）を作成することができると思いますか











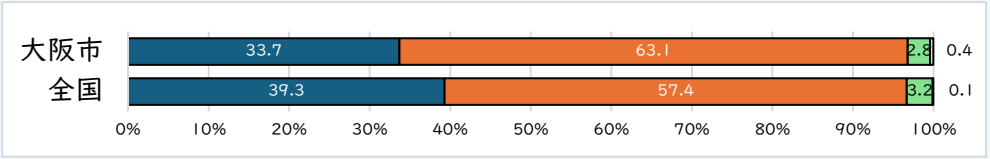
令和８年度全国学力・学習状況調査　学校質問調査より

1 2 3 4 5 6 7 その他・無回答

※集計値を四捨五入するため、横軸合計が100.0%にならない場合があります。

質問番号	質問事項
（８４）	令和７年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について、調査対象学年・教科だけではなく、学校全体で教育活動を改善するために活用しましたか

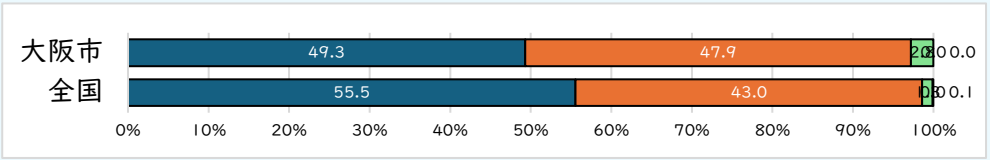
【学校の回答】　１　よく行った



１ よく行った
２ 行った
３ ほとんど行わなかった

（５４）	調査対象学年の児童に対する理科の授業において、前年度までに、観察や実験の結果を整理し考察する指導を行いましたか

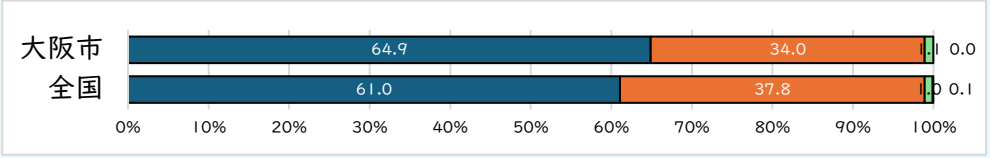
【学校の回答】　１　よく行った



１ よく行った
２ どちらかといえば、行った
３ あまり行わなかった
４ 全く行わなかった

（７２）	前年度までに、調査対象学年の児童に対する授業の中で、発達障害を含む障害のある児童も含めた、多様な児童が通常の学級に在籍していることを前提に、学級全体での指導の工夫を行いましたか

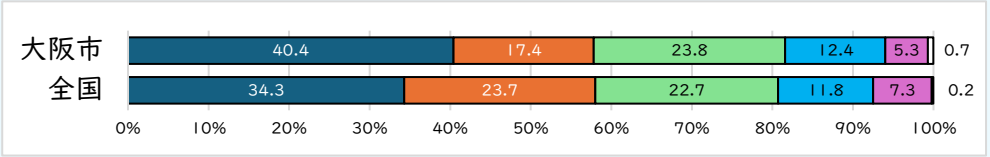
【学校の回答】　１　十分に行った



１ 十分に行った
２ 一部行った
３ 全く行わなかった

（６３）	教職員と調査対象学年の児童がやりとりする場面では、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか

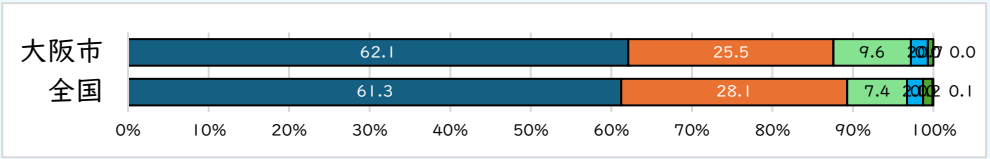
【学校の回答】　１　ほぼ毎日



１ ほぼ毎日
２ 週３回以上
３ 週１回以上
４ 月１回以上
５ 月１回未満

（１５）	前年度に、教員が学級の問題を抱えている場合、ともに問題解決に当たることを行いましたか

【学校の回答】　１　週に１回程度、または、それ以上行った



１ 週に１回程度、または、それ以上行った
２ 月に数回程度行った
３ 学期に数回程度行った
４ 年に数回程度行った
５ 行わなかった
６ 特に問題を抱えていなかった